

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2442 号

尿路結石症に伴う閉塞性腎盂腎炎における重症度予測スコア

(Making of the disease severity prediction index for acute pyelonephritis associated with urinary obstruction due to ureteral calculi)

今泉 健太郎 (いまいずみ けんたろう)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

尿路結石症に伴う閉塞性腎盂腎炎では、急速な尿路閉塞のため、腎盂内で増殖した細菌が容易に腎静脈内に侵入し敗血症へと進行することがある。しかし初診時に本疾患の転帰を予測することは必ずしも容易ではない。夜間休日などマンパワーが少ない状況下での的確な判断を求められることも多い。私たちは本疾患の重症度を予測する因子について検討し重症度予測スコアを作成した。

2001年から2013年に来院した134症例をレトロスペクティブに検討した。受診時または入院後24時間以内に、収縮期血圧90mmHg未満または収縮期血圧が通常より40mmHg以上低下した症例を重症症例と定義した。重症症例と非重症症例について、受診時の身体所見および採血データについて単変量解析を行った。単変量解析にて統計学的有意差を認めた6項目について、多重ロジスティック回帰分析を行い、それぞれの因子の重症度予測への寄与度を求めた。

多重ロジスティック回帰分析にてクレアチニン、血小板数、PS(Performance status)、CRPの4項目で統計学的有意差を認めた ( $p < 0.05$ )。回帰係数をもとに重症度予測スコアを作成した。4点以上の場合には重症化への感度は73.8%、特異度は82.6%だった。

4項目の中でも血小板の低下とクレアチニンの上昇が特に重症化に関与した。計算式で4点以上の場合には、三次救急施設などへの転送を考慮したほうが良いと考えられた。我々が作成した尿路結石症に伴う閉塞性腎盂腎炎における重症度予測スコアは、救急外来などで他科医師が初療に当たった場合でも容易にスコアリング可能であり、有用であることが示された。